

【実施日時・場所】 令和7年6月21日（土）13:00~17:00@福島大学附属小学校あおい広場

【参加人数】 18名（小学校：18名）

【研修のねらい】

- 自由研究を愉しむ小学生の話の聞いたり、参加者同士で研究や論文執筆における悩みや工夫を協議したりすることを通して、今年度のソニー教育実践論文や未来へつなぐ教育計画の執筆に向けて見通しをもつことができる。

【研修の様子】

○ 開会行事・趣旨説明

初めに、本支部研修部員の大西博子先生（いわき市立泉小学校主幹教諭）から、本講座の趣旨説明がありました。今回は例年とは違って、自由研究を愉しむ小学生の話の聴く機会があり、どんな人からでも学べる謙虚さをもって研修を深めていくことについてお話をしていただきました。



○ 自由研究発表（福島市立森合小学校4年 野口華さん）

「全国才能開発コンクール科学部門」で自由研究が3年連続入賞している、野口華さんの自由研究の概要や取り組む際の思いについてお話を聴かせていただきました。小学生の講師は、本支部の研修会始まって以来初の試みです！

華さんは「なめくじからおはなをまもれ！」という研究タイトルで、自由研究を3年間行ってきたそうです。お母さんが大切に育てている庭の草花を食べてしまうなめくじから草花を守り、お母さんを喜ばせたいと思ったことがきっかけでこの研究を始めたとのことでした。研究の出発点は、何気ない日常の中にあることを改めて気付かせてくれました。また、なめくじが好きな草花の色や種類、植え方などについて条件を制御しながら調べていました。実験をしていく中で「記録をとることの大切さ」や「自分が考えてもみなかった結果が出た時の楽しさ」などについて語ってくれました。もう小学生とは思えないくらい、研究に対する向き合い方が素晴らしかったです！

参加者からの質問にも応えていただきました。参加者からは「わたしの学校で育てているさつまいもがなめくじに食べられるのですが、それはなぜですか？」と質問する参加者も出始めました。その様子は「研究において大人も子どもも関係ない！」ことが伝わってきました。「子どもから学ぶ」それを全員で体現できた時間となりました。



○ ソニー教育実践論文の紹介（須賀川市立第二小学校教諭 植木忠佑）

「まずは目の前の子どもたちの実態をちゃんと知りたいて思って、これまで執筆してきた構成を無視して論文にしてみました」と話す植木先生の言葉や表情からは、子どもの姿に真正面から向き合う教師としての姿勢を感じました。植木先生は、理想的な子どもの姿を掲げ、その姿に見合う子どもの姿だけを取り上げて論文にまとめるのではなく、目の前の子どもたちがどのような学習状況かを把握し（Research）、そこからどのような子どもの姿を目指したいかを思い描く（Vision）ことが大切であることを教えてくれました。植木先生のお話を聴き、「もっと目の前の子どもの姿を理解したくなりました」と話す参加者の姿も見られました。



○ ソニー教育実践論文のまとめ方の講義（いわき市立小名浜第二小学校教諭 渡辺航太）

福島大学附属小学校に勤務していた時は、附属小学校の研究の中心人物としてご活躍されていました。その時の経験を基に、論文の構成や書き方の工夫についてお話していただきました。渡辺先生から教えていただいたことは、主に次のようなことでした。

- ◇ 求める子どもの姿が、「絵に描いた餅」にならないようにしなくてはならないこと
- ◇ 各授業実践に対し、きちんと成果と課題を洗い出し、それを次の授業実践にどう生かすかを考える必要があること
- ◇ 研究理論は文章だけでなく、図解して説明すること



講義の最後の「論文を書いている時はとても悩めます。でも、悩んだ分だけ子どものよさが見えてきます」という言葉が印象的でした。植木先生も渡辺先生も、目の前の子どもの姿に謙虚に向き合われている姿に、参加者のやる気もどんどん高まっているようでした。

○ グループ協議・全体共有

グループごとに、華さんや植木先生、渡辺先生の話聴き、今後ソニー教育実践論文を執筆したり、校内研究を進めたりしていく上での見通しをもちました。互いの悩みを共有していく中で、論文執筆に向けた準備の仕方や心構えだけでなく、同僚の力を借りるための秘策などについても情報交換することができました。一人で悩まず、多くの人に相談し、巻き込んでいくことの大切さを再確認することができ、執筆に向けてのやる気を全員で高めていきました！



○ ソニー教育実践論文・未来へつなぐ教育計画の応募に関する説明(ソニー教育財団 増田藤雄様)

本講座の最後に、ソニー教育財団の増田様に今年度のソニー教育実践論文と未来へつなぐ教育計画の応募に関する説明をしていただきました。増田様からは、応募に関する留意点だけでなく、論文執筆の際の工夫点についてご指導いただきました。特に、図表の入れ方にはルールがあることを改めて確認することができ、読み手を意識した書き方を工夫することの大切さを学ぶことができました。



○ 閉会行事

本講座の最後に、青田雅子支部長(南相馬市立太田小学校長)より、講評をいただきました。青田支部長からは「華さんのように、我々教師も授業研究に愉しんで取り組む必要があること」や「自分の授業実践を言語化することで、授業を見つめ直すことができ、よりよい授業に改善できるようになること」についてお話していただきました。日々の校務に追われ、自分の授業を振り返る機会を見失いがちですが、じっくりと授業における子どもの姿を言語化し、自分自身の取り組みを見つめ直す機会を今以上に大切にしたいと思いました。

